

令和7年度

「運営に関する計画」
—最終評価全体会—

大阪市立三国小学校

令和8年2月17日（火）

1 学校運営の目標

現状と課題

- 本校の児童は、思いやりの気持ちを大切にし、友だちと協力して活動することができる。その一方で、自己肯定感・自尊感情が低い傾向にあるため、自分の思いを表現できなかったり、学校へ来づらくなったりする児童がいる。人権を尊重する教育や、保護者・地域・専門機関等と連携した取り組みにより、豊かな心の育成に努める。
- 令和6年度の全国学力学習状況調査の国語科・算数科における平均正答率は、全国平均および全市平均を上回っている。しかし、学力経年調査の平均正答率は学年や教科によってばらつきがあるため、日々の学習を大切にしながら学力の底上げに努める。また、新体力テストについては、前期に全国平均を下回った種目に重点的に取り組むことで、後期に改善できている。体育科授業はもちろん、休み時間・放課後の活用により、さらなる体力向上につなげる。
- ICT機器の活用については、デジタル教科書・一人一台端末・学習者用タブレットを使った学習や、自宅等で授業を受けたい児童のためのオンライン授業など、積極的に取り組んでいる。また、月ごとの勤務時間の意識や、スクールサポートスタッフ、の充実に伴い、教職員一人あたりの時間外勤務はやや減少傾向にある。子どもたちにいきいきと向き合うためにも、学校における働き方改革を進めていく必要がある。

令和7年度の学校目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度末校内児童アンケートで「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。→92%
- 令和7年度末校内児童アンケートで「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を86%以上にする。→90.6%
- 令和7年度末校内児童アンケートで「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。→93.9%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の校内児童アンケートで「話し合う活動で、考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を46%以上にする。→52%
- 令和7年度末の校内児童アンケートで「体を動かす遊びや運動をするのが好きですか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を72%以上にする。→75%

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT活用が適さない日数を除く〕
→82%
- 令和7年度末の校内児童アンケートで「読書は好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。→84.9%

大阪府立三小中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。→85.6% ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を86%以上にする。→84.4% ・ 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。→94.8% ・ 令和7年度末校内児童アンケートで「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。→92% ・ 令和7年度末校内児童アンケートで「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を86%以上にする。→90.6% ・ 令和7年度末校内児童アンケートで「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。→93.9% 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「学校生活のきまり」や、児童会活動の年間計画を通して、安全で安心できる学校づくり、異学年交流を推進し、安心して楽しく生活できる学校をつくっていく。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月に1回「学校のきまり」を振り返る時間を設ける。 ・ 月に3回程度、異学年交流の場を設けたり、年に1回子どもフェスティバルを開催したり、年に3回児童会を中心としたあいさつに関する強調週間を設けたりする。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>日々の児童の様子やスクールライフノートを活用した児童の観察を基に、生活指導部会、スクリーニング会議で情報を共有し、支援を行っていく。また、状況に応じて、スクールカウンセラーや「淀川区子どもサポートネット」と連携し、よりよい支援方法について話し合う。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スクールライフノート「心の天気」「いいところみつけ」活用に関する資料を提示する。 ・ 月に1回生活指導部会やスクリーニング会議を実施する。 ・ いじめの早期発見のため、児童へ学期に1回、保護者に年に2回のアンケートを行う。 	B

<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>「互いの違いを認め合い、思いやりの心をもつ子ども」「自分のよいところを自覚し、そのよさを大切にできる子ども」の育成のために、「多様な体験活動」を盛り込んだ人権教育を進める。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「三国小学校の人権教育」に沿って全学級で実践し、年に1回実践交流の場を設ける。 ・ソンセンニム（韓国・朝鮮の文化等を教える民族講師）・特別支援に関して、他の機関と連携し、年に8回以上の体験活動に取り組む。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>年度目標については、児童アンケートにおいていずれの指標も達成することができている。</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月初めの全校朝会では、看護当番から生活目標と健康目標に関する話を行い、児童に月目標を意識させた。併せて、各学級で定期的に学校生活のきまりを確認する場面を設けることで、きまりを守ろうという意識が高まったが、きまりを守れていない状況もある。 ・児童会を中心としたあいさつに関する強調週間を予定通り行うことができているが、それが日常のあいさつにつながっていない児童もいる。 ・きまりについては生活指導部会などで守れていないルールについて生活指導部→学年→児童へ周知できているので、目標通り取り組んでいる。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活指導部会やスクリーニング会議を定期的にもつことで、情報の共有を図ることができた。また、校内でも他機関と、支援を要する児童や家庭への対応を話し合うなど連携をとって進めることができた。 ・「心の天気」「相談機能」の活用により、児童の心のサインを早期発見できている。毎朝心の天気や相談機能、ミマモルメを確認し、当該学級担任に報告する体制もできており、早期に対応できているが、学級によって活用にバラつきがある。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「三国小学校の人権教育」に沿って全学級で実践を進めた。学期ごとに進捗を確かめ、計画的に取り組むことができた。ソンセンニムや、特別支援教育に関する他の機関などと連携し、それぞれの学年の学習内容や発達段階に応じた体験活動を進めることができた。 ・コリアタウンでの調べ学習や中国文化に親しむ会を実施するなど、「三国小学校の人権教育」には入っていない学習も各学年の実態に合わせて進めることができている。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会主体のあいさつ運動はできているが、日頃のあいさつには結びついていないと言えないため、日常の取り組みの工夫を考えなければならないと感じる。 ・「学校のきまり」を教職員で共通理解し、指導の差がないようにしていく必要がある。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の天気の活用率が学年によって差がある。すべての学年がスクールライフノート（心の天気）を有効に活用できるよう、意識をもって取り組んでいく。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育は毎年積み重ねて取り組むことに意味があるので、ねらいを明確にしながらか年度も年間計画通り進めていく。 ・実践の計画や記録が確実にできるようにする必要がある。 	

大阪府立三小 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を46%以上にする。→40.6% ・令和7年度末の校内児童アンケートで「話し合う活動で、考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を46%以上にする。→52% ・令和7年度末の校内児童アンケートで「理科の学習が好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。→84.4% ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を72%以上にする。→70.2% ・令和7年度末の校内児童アンケートで「体を動かす遊びや運動をするのが好きですか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を72%以上にする。→75% 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 対話を通して、自分の考えを深められるよう、各学年において、「めざす子ども像」を具体的に設定する。また、基本的な学ぶ姿勢を養い、考えや思いを伝え合う力を高めるために、伝え合う場の工夫をし、筋道を立てて自分の考えや思いを主体的に表現できる子どもを育成する授業デザインの工夫を行う。</p> <p>指標 全学年で対話的な学びを充実させられる指導法の研究を行い、各学年1回ずつ、全体授業研究会・討議会に取り組む。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 対話を通して、考えを深めたり、広げたりできるような授業デザイン力や指導力向上を目指した研究や研修に取り組む。</p> <p>指標 校内公開授業に年1回以上全教員が取り組み、相互参観し、研鑽に努める。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 児童が理科の学習が好きになるような授業デザインの工夫を行う。</p> <p>指標 理科の実験や授業デザインに関する研修を年に1回以上行う。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 平素の体育科学習に加えて、休み時間を活用し、運動に親しむ児童を増やすようにする。</p> <p>指標 発達段階に応じた運動ができるように、内容を工夫して、学期3回以上講堂</p>	B

開放を行う。	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>「生活点検調査」を実施し、規則正しい生活習慣や運動習慣について、機会を捉えて指導を行う。</p>	B
<p>指標 学期に1回「生活点検」を実施し、集計結果を児童・保護者に周知する。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいて、各学年1回ずつ、計画的に授業研究会・討議会を行った。研究授業時に、対話的な学びを充実させるために、「有効な対話であったか」「めあてに向かって進めることができたか」という視点で参観した。 ・研究討議会では、視点に沿って授業を分析したり、研究主題について再共有する機会を設けたりすることで、授業デザインの工夫を行った。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内公開授業に年1回以上教員が取り組み、相互参観し、研鑽に努めた。 ・一人4回以上参観し、討議会の参加やレポート提出を行った。討議会では、授業内容に加えて、単元や教科全体についてなど、様々な視点から話を進めた。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間1回以上の理科の研修を行った。 ・理科補助員と協力し、授業の準備・片付けや、単元計画の相談等を行った。 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講堂開放を年3回以上行った。発達段階に合わせ、安全面に配慮した活動内容だった。 ・「縄跳びを教える機会」等、季節や行事と関連させて運動に親しむ機会を設けた。 <p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、生活点検週間を実施した。実施に当たり、委員会活動とも関連させ、動画による周知を行った。 ・ほけんだよりの配付や、懇談の機会に合わせた玄関掲示により、保護者へ効果的に周知した。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学習規律として、「三国スタンダード」などを再度確認し、徹底する。 ・今年度の研究の課題や成果を基に、充実させていく。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互参観については、来年度も継続する。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科の研修内容について、研修部と相談し、実施していく。 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講堂開放の内容や安全面などを考慮して引き続き実施する。 ・現行の講堂開放は学期に1回とし、それ以外は、学年ごとで決められた週の休み時間に講堂を使用できるようにし、各学年各学級で行事や授業を加味して活動を実施するなど、調整していく。 <p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活点検調査」は現行のまま継続し、日常の生活指導に生かしていく。また、家庭への呼びかけについても継続していく。 	

大阪府立三小中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕→88.3% ゆとりの日を週に1回設定・実施する。→週に1回実施 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を79%以上にする。→73.5% 令和7年度末の校内児童アンケートで「読書は好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。→84.9% 学校、地域、家庭の連携による様々な取り組みを学期に1回実施する。 →学期に1回以上取り組めた。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <p>教職員がICT機器を活用できるよう、ICT機器の環境整備を行うとともに、ICTの効果的な活用例等の共有も推進していく。加えて、ICT支援員等の人材派遣等も活用していく。</p> <p>指標 2年生以上の学級で、学習者用端末を活用した日数を週4回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>ICT機器の活用、欠席・連絡等アプリの活用、スクールサポーター、林間学習の学生ボランティア・看護師派遣等の外部人材を活用し勤務時間の削減に努める。加えて、行事の精選についても計画的に行う。</p> <p>指標 ゆとりの日を週に1回設定・実施する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>保護者・地域や公的機関と連携し、子どもの学習をサポートする仕組みを整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み語り「がちゃぼん」との交流 P T A・地域諸団体による児童の登下校の見守り 区役所・警察署との避難訓練・防犯教室 地域の講師との英語の学習 放課後ステップアップ教室 保護者引き渡し避難訓練 <p>指標 学校ホームページで、各学年月に3回更新するほか、月に1回程度、保護者・地域など外部人材との教育活動を実施する。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年度目標については、児童アンケートにおいていずれの指標も達成することができている。

①

- ・学習者用端末を週4回以上活用することができ、各学年でICT機器を活用した学習を行うことができた。心の天気の入力、連絡帳でのTeamsの活用、欠席時のオンライン授業、朝学習や長期休業中の課題としてデジタルドリル(ナビマ)、CANVA、Kahoot、タイピングソフト、お楽しみ会でのクイズ作成、調べ学習や発表スライドの作成、実験や観察の記録、生活点検や各種アンケートなど、授業や家庭で活用できた。しかし、学年や学級によって使用方法や頻度に差がある。
- ・視聴覚部を中心に、タブレット端末の環境整備や児童へICTの効果的な活用方法などの情報共有や状況に応じた研修を行った。ICT支援員の方に児童アンケートの入力やタブレット開きなどの児童への支援、児童用端末の移行作業を円滑に進めていただいた。

②

- ・ゆとりの日を週に1回設定・実施することができた。欠席・連絡アプリの活用やスクールサポーターなどの人材活用によって多くの支援があり、教員の負担軽減につながった。
- ・林間学習では、看護師の派遣により、専門的な目で子どもを見守ることができた。

③

- ・学校ホームページを更新することで、学年での取り組みや児童の様子を知る機会をつくった。学校アンケートの「学校は、学校だより・学校ホームページ等で教育目標や教育活動について保護者に知らせている」においては、肯定的な回答が92%だった。しかし、写真撮影、掲載についての制限が強まったこともあり、月3回更新ができていない学年が半数で、課題が残った。
- ・地域の方の見守り、がちゃぼんさんの読み語り、地域英語や人権教育における出前授業の活用など保護者や地域との教育活動を実施することができた。学校アンケートの「学校は保護者や地域等と連携をよくしている」においては、肯定的な回答が93.9%だった。

次年度への改善点

①

- ・今後も児童の実態に合った学習者用端末の活用を模索していく。これからの教材や児童の実態にあった取り組みや使用方法が必要になってくる。タブレットを扱う上で、効果的な活用ができるよう、学年ごとに目標を決めて、系統立てて到達できるようにする。また、児童が正しくタブレットを使用できるように、日常の指導やルールの共通理解を継続して行っていく。

②

- ・今後もゆとりの日や学校閉庁日などを設定し、勤務時間の削減にもつながるよう、みんな協力していく。
- ・保護者への連絡方法としてTeamsを見てもらうように呼び掛ける。また、保護者が確認したことを把握するために、リアクション機能などを活用できるようにする。

③

- ・写真撮影や掲載についての制限がある中で、学校ホームページを月3回更新することは難しいため、次年度は指標から外す。